

令和2年度第2回小牧市在宅医療・介護連携推進協議会 議事録

日 時	令和3年3月18日(木) 15時00分～16時00分
場 所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順・敬称略)</p> <p>浅井 真嗣 小牧市医師会 在宅医療推進委員会委員長 磯村 千鶴子 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンターコンダクター 佐々木 成高 小牧市歯科医師会副会長 芥川 篤史 医療法人純正会 小牧第一病院院長 小島 英嗣 小牧市民病院副院長兼患者支援センターセンター長 三谷 敏江 小牧市民病院副看護局長兼患者支援センター入退院支援室室長 大野 充敏 小牧市介護支援専門員連絡協議会副会長 伊藤 里美 小牧市介護保険サービス事業者連絡会会長 丹羽 李江子 小牧市介護保険サービス事業者連絡会訪問看護部会幹事 大橋 弘育 小牧市リハビリテーション連絡会会長 小林 永尚 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 伊藤 俊幸 福祉部部長</p> <p>【欠席委員】</p> <p>渡邊 紘章 在宅緩和ケアあすなろ医院院長 浅井 宏昭 小牧市薬剤師会副会長 木村 隆 愛知県春日井保健所所長 田中 秀治 小牧市社会福祉協議会地域福祉課課長</p> <p>【事務局】</p> <p>松永 祥司 福祉部 次長 西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課課長 平手 明仁 福祉部 介護保険課課長 倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係係長 佐沢 新悟 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係 波多野 晴菜 福祉部 保険医療課国保係主事</p>
傍聴者	2名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1：進捗状況報告シート</p> <p>資料2：令和3年度事業計画案</p> <p>当日配布：配席表</p> <p style="padding-left: 40px;">委員名簿</p> <p style="padding-left: 40px;">こまきつながるくん連絡帳の活用状況(小牧市)</p> <p>委員提出資料</p> <p style="padding-left: 40px;">小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例</p>

○ 主な内容

1 開会

(1) あいさつ

2 議題

(1) 事業の進捗状況について

- ・ 資料1を用いて、各委員より説明。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(1) 歯科医の訪問歯科診療の実施状況

佐々木委員)

- ・ 訪問診療対応表については、令和元年7月版からの変更は無い。令和3年版の作成と関係機関への配布をする。
- ・ 上記対応表と各歯科医院ホームページや歯科医師会ホームページの情報について、チェックし、順次修正していく。また、歯科医師会のホームページはリニューアルする予定である。
- ・ 歯科衛生士の人材確保と歯科衛生士会との協議と講習会の開催や、介護施設職員への教育の実施など、考えていきたい。
- ・ 在宅で暮らす高齢者で歯科治療や口腔ケアが必要な方を顕在化する方法について、介護認定調査員の方を対象とした歯科疾患について講演させていただけたらと思う。
- ・ 有難いことに令和2年12月に歯と口腔の健康の推進条例が公布された。
- ・ 口腔の健康・市民の健康、質の高い生活にとって基礎的かつ重要な役割を課すことを鑑みると、口腔の健康づくりに関する基本理念などが書いてある。
- ・ 乳幼児から生涯にわたって歯科疾患の早期発見、早期治療、適切な管理を受けることができ、歯と口腔の健康づくりを関係者の協力を得て推進していくものである。
- ・ 20歳 25歳 30歳の歯周病の検診も実施していく。
- ・ 条例が施行されるのは令和3年4月からであるため、それを記念して歯と健康づくりについてのイベントを開催できると良いと考える。
- ・ 介護予防の一番は、歯を若い頃からずっと守るということ。
- ・ 20本以上残っている人と10本以下の人とでは介護になる割合が15倍も異なる。
- ・ 小牧市の将来健康老人を増やす、健康な高齢者を増やせるような観点からすると、この条例が公布・施行されることの意味はすごく大きいので、皆様のご協力をお願いしたい。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(2) 薬剤師の訪問薬剤管理指導の実施状況

浅井会長)

- ・ 進捗状況シートを読んでもいただき、何かご意見等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(3) 各介護保険サービス事業所についての情報共有

伊藤(里)委員)

- ・ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、部会等や介護展などの大きな催し物が中止となった。
- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策を施設や事業所でどのような対策をしているかのアンケートや消防防災計画についてのアンケートの実施をした。
- ・ 3月10日に開催した褥瘡予防についてということで、昨年1月2月開催予定から1年越しで今回開催し、多様な事業種の方達が集まり、現地での研修として開催することができた。参加した方からは、かなりの好評をいただいた。

- ・ 市民講座「介護保険について学ぶ」を毎年開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
- ・ 実施に向けての課題は、状況を考慮した具体的な実施内容を各部会ごとに考えていくことだと思う。
- ・ 令和3年度については、4月に総会、6月に介護展を開催したいと考えている。

小林委員)

- ・ コロナ禍で事例検討会・事業所交流会というのが開催できていない状況である。
- ・ ケアマネジメント推進部会が中心となり、次年度の事業所交流会の開催に向け、企画をしていきたいと考える。
- ・ 実際に集合する形式での研修開催は難しく、ICT等を活用し何らかの形で進めていきたい。また、関係機関で実施する研修とテーマや内容が重複しないように調整しながら進めていく。

浅井会長)

- ・ ご意見ご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ア) 地域の医療・介護の資源把握

(4) 医療・介護資源の情報収集・管理

磯村委員)

- ・ 新規開業クリニックの情報、確認を行い訪問し情報収集をした。
- ・ 県医師会の実態調査は毎年実施している。
- ・ こまきつながるくん連絡帳の登録についても案内を継続している。
- ・ 医師とケアマネ連携一覧更新のため、医師会・薬剤師会へアンケート調査を行った。歯科医師会については、4月以降に情報を提供いただく予定となる。

伊藤(俊)委員)

- ・ こまきつながるくん連絡帳の関係だが、障害者施設内にも高齢の障がい者の方が存在するため、田中委員のご協力のもと、41の障害者福祉施設につながるくん連絡帳へのご登録をいただいた。
- ・ 医師とケアマネ連携一覧は3月中に掲載予定である。歯科医師会については再度、更新をすすめる考えである。
- ・ 課題としては、医師とケアマネ連携一覧の最新の情報を保持していく必要があるということ、また、こまきつながるくん連絡帳の登録割合は、現在上昇しているが、引き続き登録を促していく必要があると考える。

浅井会長)

- ・ 医療機関の登録が少なく、何とか登録数を増やしたいと思うが、なかなか増やすことができない。
- ・ その他ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

(1) 医療・介護の関係団体との連携

磯村委員)

- ・ 相談対応等の情報共有は地域包括支援センターと会議をしている。
- ・ 実施に向けての課題は、地域ケア会議の参加ができていないことである。
- ・ 相談対応内容について医療、介護関係者と情報共有し他機関とのネットワークをつくっていきけるとよいと考えている。

小林委員)

- ・ 地域ケア会議の開催回数が新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減っている状況である。
- ・ 総合相談の対応内容になるが、身寄りがない方への対応・支援がとても増えてきている。特に入退院などの際の医療の方との共通認識が乏しい状況かと感じる。
- ・ 身寄りのない方への支援は本当に増えている状況のため、来年度の前半を目途にどういったケースかという分析や集計を進めていきたいと考えている。
- ・ 地域ケア会議が開催できていないが、居宅の介護支援専門員さんからの開催依頼というのは少ない状況かと感じている。
- ・ ケアマネジメント推進部会において地域ケア会議のマニュアルの見直しを進めていく。
- ・ 地域ケア会議で抽出された地域課題について、市全体で検討していく場というのは、まだ少なく、ないに等しいと考える。
- ・ 介護支援専門員さんに地域ケア会議をやってよかったと思ってもらえるような有効性を見える化し、活かせるものを増やしていきながら、医療・介護の連携がより進んでいくのが望ましいと考える。

大橋委員)

- ・ 身寄りのない方の定義はあるか。

小林委員)

- ・ 家族や親族が誰もおらず、本当に一人で暮らしている方。
- ・ 支援をしてくれる友人や知人がいれば、身寄りがないとは言い難い。

大橋委員)

- ・ 何か原因というか要因があるのか、そのような方は珍しいと思うが、多いのか。

小林委員)

- ・ 様々な事情があるかと思う。親戚の方がいても本人とは縁を切っているからというケースも身寄りのない方としている。

浅井会長)

- ・ 身寄りのない方への支援は、今後も課題となる。法律上可能な範囲を明確にし、それが可能な人間や団体、またやれない内容などを勉強できる機会があると良いかと思う。

大野委員)

- ・ 地域ケア会議のマニュアルの見直しとの話があったが、このマニュアルはどのようなものか。

小林委員)

- ・ 参加者を含め、会議の進め方や会議後の動きなど、全てを指してマニュアルとしている。
- ・ 地域ケア会議をいつ頃から準備し、どのような話をするか、どのような方に参加していただくか、地域の課題は何か、今後どのように支援していくかなどを考える全ての流れをマニュアルとしている。

大野委員)

- ・ 居宅の介護支援専門員からの依頼が少ないとのことのため、少しでも増やせると良いと考えている。

浅井会長)

- ・ その他ご意見、ご質問等がなければ、次の事業報告をお願いしたい。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(1) 医療機関と訪問看護・ケアマネジャーの連携

磯村委員)

- ・ 医療・介護勉強会は1回開催ができ、オンラインで開催した。
- ・ 今後も訪問看護・ケアマネジャーとの連携強化に向けて、医療に特化した勉強会を開催し理解を深めるとともに、ニーズに合っているかどうか、医療介護関係者と定期的に連絡調整をしていきたいと考えている。
- ・ オンライン形式での開催や集合形式とオンライン形式と併用で開催するなど工夫が必要と考える。

大野委員)

- ・ 現状、訪問看護・ケアマネジャーの情報交換会、事例検討会が実施できていない。
- ・ 医療・介護の連携の体制というのは重要であると認識しており、現場は多忙となっているが、そうではなく、工夫をしつつ、連携していきたいと考える。

丹羽委員)

- ・ ケアマネジャーと訪問看護の連携で、一般的な感染症に関する研修会なども開催していただけたらと考える。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(2) 副科受診の支援

磯村委員)

- ・ 副科の対象拡大については婦人科・泌尿器科と調整しており、眼科・耳鼻咽喉科は当初より継続している。
- ・ 副科紹介ツールはそのまま継続する予定であり、書式は当分の間、紙ベースである。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあるせいか、ケアマネジャーからの副科紹介依頼は少ない状況である。

浅井会長)

- ・ 私の責任でもあるが、副科をしているということの認識がまだまだ少ないのではないかと考える。
- ・ あまり増えすぎても対応ができるかという懸念はあるが、歯科医師会、ケアマネジャー、訪問看護ステーションや包括支援センターなどからの紹介依頼があれば対応していく。
- ・ 在宅医療・介護連携サポートセンターが仲介に入り、しっかりつなげていただきたい。
- ・ その他、ご意見やご質問等があればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

(3) 摂食嚥下サポートチームの活動支援

磯村委員)

- ・ 小牧ごっくんサポートチームはチーム内の勉強会をオンラインで開催した。3月に勉強会の開催を予定しており、それを含め3回の実施となる。
- ・ 摂食嚥下評価スコア 2020 を第1回医療介護勉強会としてオンラインで開催した。
- ・ 今後、小牧ごっくんサポートチームは医療介護関係者に、小牧ごっくんスコア（摂食嚥下評価スコア）を小牧の評価基準となるよう取り組む予定である。
- ・ 出張勉強会についてはコロナ禍でもあるため、6月に1度だけ開催した。
- ・ 出張勉強会の対象施設の選定や人員確保等の課題はある。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、通常通りの開催が難しく、オンラインでの開催も多くなるかと考える。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(エ) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(1) 病院とケアマネジャーの連携

三谷委員)

- ・ 昨年度同様に連携シートについては、ほぼ100%近く活用されており、当院においても活用しているところである。
- ・ 連携シートから、どのようなADLできているかということを確認し、退院に向けた設定をするためにも活用させていただくため、これからもお願いしたい。
- ・ 少し事業報告から離れる部分かもしれないが、当院は地域医療支援病院であるため、研修会等を積極的に開催していかなければいけないが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか開催できていない。
- ・ 3月に当院の緩和ケアセンターにおいて緩和ケアの講義を実施した。
- ・ 参加者より、好評をいただいたため、今後もオンラインの研修会を積極的に開催していきたいと考える。
- ・ 加えて、オンラインによる面会を3月から始めたところである。まだ、1例も無いが、遠方のため面会できない、当院の面会制限により面会できないなど、心配されている方については、この面会方法を進めていきたい。
- ・ 面会制限のため、面会禁止の状態ではあるが、在宅支援に向かっている方々についての会議は全く中止しておらず、地域の皆様には当院に足を運んでいただき、調整させていただいている。日ごろ、ご協力いただいていることに大変感謝しており、今後ともよろしくお願ひしたい。

浅井会長)

- ・ 田中委員の分も含め、ご意見等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(エ) 地域の医療・介護関係者の情報共有の支援

(2) ICTの運用（機能強化）

伊藤（俊）委員)

- ・ こまきつながるくん連絡帳の登録状況について、登録施設数は前回報告よりも66か所増の214か所に、登録患者数は34名増の139名となった。
- ・ 会議や説明会の案内をこまきつながるくん連絡帳を使用し情報共有しており、活用を広げていきたいと考えている。

- ・ 広域連携については、現在 54 市町村中 46 市町村と連携協定した状況である。
- ・ さらには、今年の 10 月には半田市、西尾市、愛知県医療療育センターと連携が可能になる予定である。
- ・ 3月1日より駐車場シェアシステムこまきハートフルパーキングの利用を開始した。3月1日現在の状況は、22名の方から53台の駐車場の提供があった。
- ・ 利用開始にあたり、医療・介護従事者向けの説明会をオンラインで実施した。
- ・ こまきハートフルパーキングは、22名の方からご協力をいただき、計53台でスタートしている。今後も提供者を募り、台数を伸ばしていくものと考えている。皆様にはこれからもご協力の程、よろしくお願ひしたい。

磯村委員)

- ・ 会議開催案内、議事録、オンライン会議の資料等、こまきつながるくん連絡帳を通して周知連絡ツールとして活用している。
- ・ 研修会開催の周知はこまきつながるくん連絡帳のみでなく、未登録の方へ周知方法を確立する必要があると考えている。また、歯科医師会も同様である。

浅井会長)

- ・ こまきハートフルパーキング、ぜひここにいる皆さんも利用していただきたい。
- ・ 次の事業報告だが、(1)と(2)を続けてお願ひしたい。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(1) 在宅医療・介護連携サポートセンターの運営

磯村委員)

- ・ 令和元年度は63件の相談や問合わせがあった。令和2年4月から令和3年2月までで、43件対応している。
- ・ 市民の相談窓口としてサポートセンターの周知啓発がまだまだ必要であると考えため、今後も関係事業所や市民に対し相談窓口としてサポートセンターの普及啓発を継続していきたい。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(2) 在宅医療・介護連携サポートセンターと地域包括支援センターの連携

磯村委員)

- ・ 地域包括支援センターから医療に関する相談について対応しており、連携はできていると考える。
- ・ 地域包括支援センターの管理者会議に参加、情報共有しており、また生き生き人生プロジェクトが今年度発足したが、それも委員として参加している。地域包括支援センターと協働できる取り組みの協議はできていないのでこのあたりが課題と考える。

小林委員)

- ・ 地域包括支援センターの管理者会にサポートセンターの方も参加しており、サポートセンター会議に地域包括支援センターの管理者が輪番制で参加している。相談や連絡がしやすい関係づくりに努めている状況である。
- ・ 個別のケースに関しては、相談等があれば、その都度連絡をしている。
- ・ 課題に関しては、先ほど磯村委員のおっしゃったとおり、今後の具体的な取り組みについて協議していく必要があると考えている。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願ひしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(3) アウトリーチ型の相談体制の充実

磯村委員)

- ・ 小牧市の在宅医療・介護の冊子を今年度作成し、医療・介護関係機関に送付をした。
- ・ これについては、周知とともに市民に医療・介護相談ができる窓口があることを広く周知できるとよいと考える。
- ・ 地域包括支援センターに同行しサポートセンターの啓発を今年度2回行った。
- ・ 課題は、サポートセンターの存在を市民に周知・啓発することであると考える。

小林委員)

- ・ 地域包括支援センターの認知度というのは、まだまだ低い状況かと思う。
- ・ 広報こまきで「知ってる？地域包括支援センター」というタイトルで奇数月の15日号で周知している。
- ・ これまでの報告内容にある、銀行や病院などは、相談会に関してだが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催数が減少している状況である。
- ・ 認知症高齢者等あんしん補償事業に関し、普及啓発のため企業等へ訪問を実施している。
- ・ 地域包括支援センターでは、広報こまきとは別に、独自で便りを発行しており、地域の回覧、病院や薬局など、市民の方が目にしやすいところに設置をしている。
- ・ 課題としては、地域包括支援センターの認知度を広めていくために、高齢者の方には広まってきているのかなと感じているが、現役世代の方への周知は、まだまだ必要かと思う。周知方法等を含めて考えていきたい。

浅井会長)

- ・ 田中委員の分も含め、ご意見等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(カ) 医療・介護関係者の研修

(1) 多職種連携研修の実施

磯村委員)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により多職種連携研修会は開催できていない。
- ・ 医療・介護勉強会については、先ほど報告した摂食嚥下評価スコア2020をオンラインで開催した。参加者は37名であった。
- ・ オンライン、対面の両方で開催できるように方法等を考えていく必要がある。
- ・ 多職種が集まりグループワークができるネット、対面開催の環境作りが今後必要であると思う。

丹羽委員)

- ・ 定期的な部会の開催はできず、ようやく年明けに部会を開催し、現状と今後の研修について話げできた。
- ・ 多職種で研修ができると良いと思うが、集合形式は難しいと考えるため、オンラインの研修を考えていきたい。
- ・ オンライン開催する環境や、主催者側のスキルに不安がある。苦手な人が多く、経験も無いが、規模を大きくし、多職種で行うという研修も検討していきたい。

大野委員)

- ・ ケアマネジャーが開催している井戸端事例検討会は、8グループが活動しており、現状1～2回実施ができた。

- ・ 今後、多職種の方と一緒に検討会を開催できないか、例えば薬剤師や看護師、訪問看護師等の方と一緒に検討会をできないものか検討している。
- ・ 五者連絡会（介護支援専門員連絡協議会、介護保険サービス事業者連絡会、地域包括支援センター、在宅医療・介護連携サポートセンター、小牧市）を通じて、他機関と、研修日程やその内容が重複しないように引き続き調整していく。
- ・ 研修があまりにも多くなりすぎることがないように、全体を通じたテーマ設定が必要になるかと思う。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(カ) 医療・介護関係者の研修

(2) 在宅医療・介護連携研修、勉強会等の実施

大橋委員)

- ・ 予定していた勉強会は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期しており、安心安全を確保した後に開催する予定である。
- ・ 神経難病の講座については、9月10日開催の依頼があったので対応する。
- ・ ケアマネカレッジは、依頼があれば対応させていただく。
- ・ 地域ケア会議等の参加について、療法士にわざわざ来てもらうまでもないというような声も聞くが、できれば開催される近くの療法士が気軽に声をかけてもらえるようにしていけると良い。
- ・ そういう意味では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、療法士の異動もあるので、把握をし、体制を整えたい。

磯村委員)

- ・ 同行訪問研修については、まだ実施に至っていない。
- ・ 医療・介護関係者への研修は1回オンラインで開催した。多職種チーム内勉強会は2回開催し、3月に1回予定している。

浅井会長)

- ・ 田中委員も分も含めご意見等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(キ) 地域住民への普及啓発

(1) 市民向け講演会の実施

伊藤（俊）委員)

- ・ 令和2年度の講演会については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送った。
- ・ 令和3年度について、実施したいと考えており、開催方法や内容の協議、感染対策の実施等も必要になると思うが、よろしくお願いしたい。
- ・ 講演会ではないが、市民への普及のため、偶数月の15日号の広報こまきにて「知ってる在宅医療」というテーマで在宅医療の紹介を実施している。令和3年度も引き続き実施していきたいと考えている。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(キ) 地域住民への普及啓発

(2) 在宅医療・介護に関する普及啓発

磯村委員)

- ・ 小牧市の在宅医療・介護の冊子を作成し、啓発を目的に医療介護関係機関に郵送及び訪問し啓発をしている。
- ・ 今後も広報こまきに「知ってる在宅医療」という啓発コーナーでサポートセンターの周知を図る。
- ・ 作成した冊子を活用した普及啓発として市民への出前講座がまだできていないので、必要があれば活用し開催したいと考える。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(キ) 地域住民への普及啓発

(3) サロン等における在宅医療・介護に関する取り組み

佐々木委員)

- ・ 口腔機能低下症という病気が3年前に保険の対象となった。
- ・ 我々もどのように保険医療としての請求をすればよいか検討しており、そうしたことをサロンを通じて高齢者の皆さんにお伝えしたいが、残念ながら昨年からの新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっている。
- ・ 状況が完全に改善したらお伝えしていきたいと思うが、例えば、リモートで行うということができるのか。

事務局)

- ・ サロンでのリモート会議のような形式での実施ということだが、不可能ではないと考える。実際にコロナ禍でリモート形式で実施しているという話は聞いていないが、今後もこういった状況が続くのか、収束するのか、なかなか見通しが立たない状況のため、少しハードルが高く難しい部分もあるかと思うが、地域の方が担い手となり実施しているサロンになるため、そういった情報や内容も踏まえてサロンを担う方達へ伝えていきたいと考える。

大橋委員)

- ・ 膝腰スッキリ体操の依頼は1件もなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響かと思う。
- ・ こまき山体操は3月15日から再開し、1回実施した。小牧市社会福祉協議会からコロナ禍でサロン活動ができないため、ビデオを制作したいという話があった。
- ・ 先週に撮影し、来週にも撮影があるが、次年度の4月から9月の間、毎月1本ずつ流す予定である。YouTubeや市役所、薬局さんなどのテレビで流したいということで、今制作中である。
- ・ リモートやYouTubeでというのはちょっと高齢者には不向きなのかもしれないが、ビデオを作ってそこで流すということで順次制作している。
- ・ 制作には言語聴覚士も関わり、口腔機能に関する内容なども検討しており、良い物が出来上がると思う。
- ・ 実施に向けての課題は、いつも同じような内容となるが、実施する人間が固定されているというところがあるので、これを広げていきたいと考える。

浅井会長)

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(キ) 地域住民への普及啓発

(4) わた史ノートの普及・啓発

伊藤（俊）委員

- ・ わた史ノート出前講座は、令和2年度は1回のみ開催した。
- ・ 生き生き人生プロジェクトで、わた史ノートの普及について検討しており、その検討結果も踏まえながら普及啓発に繋げていきたいと考えている。

小林委員

- ・ 伊藤（俊）委員の報告にもあったように生き生き人生プロジェクトで検討された内容に合わせて、啓発活動を行ってきたいと考えている。
- ・ 言葉だけがひとり歩きしてしまわないように、地域包括支援センターも理解したうえで啓発を行ってきたい。

浅井会長

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(1) サポートセンター連絡会議

磯村委員

- ・ 尾張北部医療圏と近隣市町のサポートセンター及び3保健所が参加をし、月1回在宅医療・介護情報交換会を開催した。1回はオンラインでの開催であった。
- ・ そのなかで医療・介護連携シートについても情報交換を行った。
- ・ 今後も定期的に開催して在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組みについて情報共有を行う予定である。
- ・ 在宅医療・介護連携推進事業の各市町の取り組みや情報共有のため、開催方法について調整する必要がある。

浅井会長

- ・ ご意見やご質問等あればお願いしたい。
- ・ 特に無ければ次の事業報告へ。

(ク) 在宅医療・介護に関する関係市区町村の連携

(2) 広域連携の推進

浅井会長

- ・ 水野委員は欠席のため、読んでいただき特にご意見等なければ議題1を終了とするがよいか。

佐々木委員

- ・ ACP、わた史ノートなど、普及啓発しているが、どの程度の普及啓発ができているのか。また、こういった事業を広く周知するためには、どういった媒体、手段を用いると一番効果的になるのかというのを教えていただきたい。

事務局

- ・ ホームページや講座を使った普及啓発を行っている。
- ・ 地域包括支援センターや市役所、各支所などでわた史ノートの配布で普及啓発を図っている。

- ・ 電子媒体ではホームページが効果的かと思うが、紙媒体の方が受け入れやすいという方も一定数いらっしゃるため、両面からの普及啓発が必要かと考えている。

佐々木委員)

- ・ 実際に利用されている方がどれくらいいるのか把握はしているか。

事務局)

- ・ 人数などの把握はしていない。

浅井会長)

- ・ 他にはよろしいか。

(2) 令和3年度の事業計画案について

- ・ 資料2を用いて、磯村委員より説明。

3 その他

事務局)

- ・ こまきハートフルパーキングについては、令和3年3月1日より運用開始となった。
- ・ ご利用をいただくようお願いしたい。また、駐車場の提供を呼びかけることが可能であれば、医療従事者の方からも、声掛けをお願いしたい。

【閉会】